

# はじめに

学会の会則に「早稲田大学を母体とする心理学の発展ならびに会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあります。

学会は創設当初から、公開講演、シンポジウム、研究部会別シンポジウム、パネルディスカッションなど、これらいくつかを組み合わせることで学会が開催されてきました。学会内には計8つの研究部会なるものが自発的に作られ、それぞれ、様々なテーマで研究会が持たれてきました。

以前から学会活動に大きく寄与して下さった浅井邦二、相馬一郎、春木豊の諸先生は1987年に所沢市にある早稲田大学人間科学部に転属され、教室をまとめてこられた本明寛先生が1989年に退職されたことなど、それ以降の学会活動に影響を与えました。

2000年前後からは、年次大会は公開講演会やパネルディスカッションなどいずれか一つを企画し始めるようになりました。会員数は減る方向に転じ始め、学会予算が減少し始めたのもこの頃です。

年次大会とは別に年2回程度、専門家による「教養講座」を開催して学部生や院生、市井の人に参加を呼び掛け、HPを立ち上げて情報発信し、機関紙も早稲田大学心理学会会報からより身軽な瓦版の発行に切り替えました。大会や教養講座の折には学内に手作りの立て看板を立て、新聞の無料広告に応募し、それなりの成果を上げてきました。

振り返って見れば、当学会は長きにわたり公開講演会、パネルディスカッション、公開シンポジウム、教養講座により、心理学の視点から現代社会の課題をとり上げ、問題点とその関連知識を提供し、深く考える機会と前向きに取り組む気持ちを醸成してきました。

1954年12月に発足した早稲田大学心理学会は2020年度をもって閉会することになりました。当学会が心理学の発展と会員相互の交流の場であると共に、心理学の扉を社会に開く機会を作り、社会の人々と交流する場をも生み出してきた66年間でありました。

2021年1月

石井康智